愛知医科大学病院看護部
第4回 特定行為研修センター シンポジウム

特定行為看護師 × 「看護実践能力」 × 再考

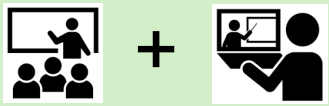
医学的・看護学的視点を統合し、患者アウトカムに繋げる実践へ

看護師の**特定行為研修制度が始まって10年**、**当院が研修を開始して5年**が過ぎますが、医療を取り巻く環境が大きく変化するなか、**特定行為看護師に求められる役割も変化**してきたように思います。いま求められているのは、**単に「特定行為ができる」ことではありません**。制度開始当初から求められてきたこと、つまり**患者の状態を的確に捉え、医学的視点と看護学的視点を統合し、その人にとって最適な医療・看護を、多職種とともに実践していく力**なのではないでしょうか。

では、**「医学的・看護学的視点を統合した看護」とは、どのような実践なのでしょうか**。本シンポジウムでは、制度開始10年、当院開講5年という節目に、これまでの歩みと実践を振り返りながら、**急性期医療において特定行為看護師に求められる看護実践能力を改めて考え**ます。そして、特定行為という「行為」だけにとどまらず、**看護学の原点に立ち返り、これからの特定行為看護師に求められる看護の専門性とは何かを皆さんとともに考える機会**とします。

開催日決定！！
2027年1月16日(土)
午前の部　09：30～12：30
午後の部　13：30～15：30
愛知医科大学本館1階101号室

ハイブリッド開催！！
Zoomでもご参加可能



参加費
1,000円
（銀行振込：別途ご案内）
銀行振込手数料は参加者自己負担

総合司会：髙柳主任（臨床教育・研究室／フライト・ナース）

はじめに：開会の挨拶　萬谷看護部長

午前の部：シンポジウム

座長：萬谷看護部長・黒澤教授（看護学部）

09：40 ～09：50	問題提起	**齋藤師長**（臨床教育・研究室／専門看護師）
09：50 ～10：50	医学的・看護学的視点の統合とは何か（特定行為で求められるもの）	**伊藤健大 先生** 訪問看護ステーション・ウェルビー 管理者・診療看護師（長崎県・西海市）
11：00 ～12：00	看護の奥深さはどのように育まれるべきか（経験軸とピープル軸）	**藤野泰平 先生** みんなのかかりつけ訪問看護ステーション 管理者（全国13都道府県34店舗）
12：00 ～12：30	ディスカッション	

午後の部：特別講演

座長：齋藤師長・髙柳主任

13：40 ～14：45	特定行為看護師に求められる臨床判断とはいったい何か？	**山形泰士 先生** 東京科学大学病院　ER／教育・キャリア支援室 副看護師長・集中ケア認定看護師 Clinical Nurse Educator
14：45 ～15：20	ディスカッション	

15：20 ～15：30　**終わりに：閉会の挨拶　萬谷看護部長**

AICHI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

お申し込みは・・・
コチラから →

https://forms.cloud.microsoft/r/3uza7z2Z3e

問い合わせ先
愛知医科大学病院 看護部
（特定行為研修センター）
担当：齋藤・高柳
tokutei@aichi-med-u.ac.jp

登壇者から皆様へのメッセージ

1つの問い：「看護」とは何か？



愛知医科大学病院　副院長／看護部長　萬谷和代

看護とは、**人の生命と尊厳を守り、一人ひとりの患者さんとご家族に寄り添いながら、その人らしく生きる力を支えること**であると思っています。患者さんの**身体的・心理的・社会的状況や思いを丁寧に捉え、今何が必要とされているのかを考え続けること**を大切にしています。その理解を基盤として、**確かな知識と技術をもって看護を実践**してほしいです。 シンポジウムでは、**医学的視点と看護学的視点を統合した看護**、**特定行為看護師に求められる看護の専門性**について、皆さんとともに考え、学びたいと思います。

訪問看護ステーション・ウェルビー
管理者／診療看護師　伊藤 健大 先生



私が大切にしていることは、**「何ができるか」よりも「その人に何が必要か」を考えること**です。看護ケアも、特定行為も、**医学的な知識も、患者さんやご利用者さんの生活を支えるための大切な手段**だと考えています。病気だけでなく、**その人がどこで、誰と、どのように暮らしていきたいのかに目を向け、医学と看護の両方の視点を行き来**しながら、**その人にとってよりよい選択を一緒に考えていく**ことではないでしょうか。**特定行為の実践は、まだまだこれからの分野**です。だからこそ皆さんと一緒に考え、学び合いながら、これからの実践につなげていければと思います。



みんなのかかりつけ訪問看護ステーション
管理者　藤野 泰平 先生

救急で働いていた頃、同じ方が何度も運ばれてくるのを見て、私は**病気を「治すこと」とその人が「幸せに生きること」は同じではない**と気づきました。病気は治っても、その人の暮らしが立て直されなければ、また同じことが起きる。**看護とは、目の前の病態を的確に捉えながら、その人が帰っていく生活と人生までを看る仕事**だと思います。医学的視点は、その人の願いを叶えるための確かな武器です。しかし、**どんな"武器"も「この人はどう生きたいのか」という問いがなければ向ける先を失います。確かなキュアと、その人への関心。その両方を手放さないことが"看護の専門性"**だと私は考えています。

東京科学大学病院 ER/教育・キャリア支援室
副看護師長・ICCN・CNE　山形泰士 先生



看護とは、**患者がその人らしく成長し、自己実現へ向かう歩みを支える営み**ではないでしょうか。**看護と教育**は、**「成長を支援する」という視点**で深く通じ合います。そして、**臨床判断**とは、**患者との関係性と対話の中で、その時、その状況における最善を共に見いだし、選び取るプロセス**です。この本質は、高度な臨床推論力を有する**特定行為看護師においても変わるものではありません。**本シンポジウムでは、**看護の本質に立ち返りながら、特定行為看護師に求められる臨床判断について皆さまと探求**していきます。

愛知医科大学病院
AICHI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL